

本の謹呈

各学校長 様

2019年4月

熊本県教職員組合

本のタイトル 「被災地の通学路」

—熊本地震から3年—

平山朋子 著

熊本地震から3年経ちましたが……学校や子どもたちの様子はいかがでしょう？

この度熊本地震発生時からの子どもたち、学校、教職員の状況をまとめた本が出版されました。この本のご紹介とともに熊本地震を今一度振り返り、考えるきっかけになればという思いで、上記の本を送らせていただきます。

著者の平山朋子さんは、小さい頃に神戸淡路大震災を経験されています。大学卒業後教育文化総合研究所「東日本大震災・原発災害と学校」研究委員会に参加し、季刊誌「教育と文化」で「被災地のこどもたちのいま」を担当し、震災後の子どもたちの生活をていねいな取材を通して、子どもたちの目線で感じたこと、考えさせられたこと、これからのことなどをレポートや本にしてこられています。

熊本では震災後被災地の学校や地域を回り、多くの先生方や地域の方の取材をされています。熊教組としても全面的に協力し、被災した多くの組合の先生方を紹介しました。タイトルの「被災地の通学路」には学校だけでなく、家庭、地域とのつながりの中でどうこの震災を乗り越えたのか？ どのような困難があったのか？ また課題としてどういうものが問われているのか？ 考えさせられるものばかりです。これらの取材を1冊の本として出版されると聞き、私たちとしても全面的に応援したく、熊本の各学校と全国の支援して頂いた団体に本を贈呈することにしました。

平山さんには2017年の熊本での教育研究集会の記念講演「大震災後を生きる」を皮切りに、全国の教育研究集会でも震災後の熊本の子どもの様子を発表してもらっています。被災した熊本の教職員に代わって、熊本地震のことを全国に伝えて頂いていることに本当に感謝しかありません。

「復旧10年、復興10年、語り継いで10年」の言葉の意味を今ひしひしと感じています。「震災の影響はボディブローのように徐々に効いてくる！」とボランティアで来られていた神戸の先生から聞きました。これからも復興に向けて取り組んでいきましょう。

